



事務局：〒330-0834 埼玉県さいたま市大宮区天沼町2-323 埼玉県立大宮高等学校
E-mail jaeis-jimu@jaeis.org <http://jaeis.org/>

日本情報科教育学会 第10回研究会報告

近畿・北陸支部 高橋 参吉

2018年3月21日（水）、帝塚山学院大学泉ヶ丘キャンパスにおいて、近畿・北陸支部の総会の後、下記に示す内容で、第10回研究会を実施しました。研究会の参加者は、53名でした。

プログラム

日 時 2018年3月21日（水）

場 所 帝塚山学院大学 泉ヶ丘キャンパス 本館 603、604、605教室

11:30～12:45 意見交換会（昼食会）（605教室）

12:55～ 開会挨拶 研究会委員長 西野 和典（九州工業大学）

13:00～14:15 口頭発表1（603教室）

1. プログラミングは簡単でいいのか ～数学と比較して適切なレベルを模索する～
山下 裕司（山口県立岩国高等学校）
2. 情報科教育のためのプログラミング教室の実践
西 誠（金沢工業大学）
3. 「情報の科学」での「micro:bit」によるプログラミング教育の可能性 ～小学校から高校までの一貫したプログラミング教育～
高橋 参吉（帝塚山学院大学）、喜家村 奨（帝塚山学院大学）、西野 和典（九州工業大学）
4. カリキュラム・マネジメントにおける教科横断的な情報科教材の提案 ～数学科におけるプログラミングで学ぶ情報科教材の活用とその効果～
佐藤 万寿美（伊丹市立伊丹高等学校）

14:15～14:55 デモ発表（604教室）、休憩（605教室）

1. micro:bitとアーテックロボを使用した小・中・高等学校用プログラミング教材について
喜家村 奨（帝塚山学院大学）、高橋 参吉（帝塚山学院大学）
2. 平投射型電子黒板システムの開発
江見圭司（京都情報大学院大学）

14:55～15:50 口頭発表2（603教室）

5. 課題解決型学習において学校図書館の情報環境をどのように活かすか ～学習を活性化するための司書の関わり～
山崎勇氣（清教学園中・高等学校）

本号目次

報告 第10回研究会 1	報告 第14回九州・中国・四国支部研究会 5
報告 第5回関東・東北支部研究会 3	案内 第11回全国大会 発表等のご案内 6

第10回研究会報告 報告

6. 高校生のためのパソコン操作の指示および習得支援システムの開発
梅本 雄史（長崎総合科学大学大学院）、田中 賢一（長崎総合科学大学）
7. ルーブリックによる高大情報教育接続に向けた一提案
林 康弘（帝京平成大学）

15:50～16:40 パネルディスカッション 「新学習指導要領について」
司 会 高橋 参吉（帝塚山学院大学）

パネリスト 佐藤 万寿美（伊丹市立伊丹高等学校）、加藤 光（大阪府立岬高等学校）

16:40～16:45 閉会挨拶 稲川 孝司（大阪府立東百舌鳥高等学校）

口頭発表では、主にプログラミングに関する発表（4件）、情報科教育全般に関する発表（3件）があり、活発な討論が行われました。デモ発表では、「アーテックロボ、プログラミング教材」、「平投射型電子黒板システム」が紹介されました。両方の発表とも、新しい学習のための興味のある教材・教具であり、多くの方が熱心に見学されていました。

また、研究発表の前に実施した昼食会（意見交換会）には、31名の参加がありました。小学生のように4名が机を囲み、お弁当を食べながら談笑しました。パネルディスカッションで、聞きたいこと、知りたいことなどをメモ用紙に書いていただきました。なお、弁当屋さんからの差し入れの1箱のミカンやきれいなお花（前日の卒業式のものですが・・・）は印象的でした。

パネルディスカッションでは、高等学校の学習指導要領（案）について、司会者（高橋）から、実施までの流れ、情報教育の改訂ポイント、情報I、情報IIの大項目の紹介のあと、パネリスト（佐藤、加藤）から、現行と新学習指導要領の違い（主として情報I）と想定される内容などについて、意見発表をしてもらいました。その後、参加者からの質問・意見、フロア指定討論者（西野）から、現行の専門教科から見た情報I、情報IIに対するコメントをもらいました。

このように、新しい試みである昼食会（意見交換会）、口頭発表、デモ発表、パネルディスカッションのそれぞれの部門で、活発な意見交換が行われ、有意義な会となりました。

注）高等学校学習指導要領は、3月30日告示され、当日資料（パブコメのための案）として配布した情報Iの内容では、「（4）情報通信ネットワークとデータの利用」が「（4）情報通信ネットワークとデータの活用」と修正された。



口頭発表の様子



デモ発表の様子

第5回 日本情報科教育学会 関東・東北支部大会の報告

第5回 関東・東北支部大会 実行委員会

日本情報科教育学会関東・東北支部では、2018年3月24日（土）午後、日本大学文理学部にて、第5回 関東・東北支部大会を開催しました。前半に支部総会、後半にワークショップを開催した後、情報交換会を実施しました。以下、それぞれの様子をご報告いたします。

14:00～14:50 支部総会（参加者17名）

例年通り、2017年度活動報告の承認、収支決算報告の承認、2018年度事業計画概要案の承認、収支予算案の承認を行いました。また、支部の所在と事務局を東京学芸大学とする規約と細則の改定の承認を行いました。報告事項として、プログラミング教育検討委員会情報科カリキュラム案が支部案へ昇格されたことなどが報告されました。

15:00～17:00 ワークショップ（参加者20名）

支部総会に続き、「プログラミングの教育を考えよう」と題したワークショップを実施しました。はじめに、問題提起や現状報告を内容としたライトニングトークがあり、その後、4つのグループに分かれて校種ごとの授業の目標、教材等、授業を展開するために必要な事柄について検討し、各グループの検討内容を全体で共有しました。

ライトニングトークでは、4名の先生方による様々な側面からの話題提供がありました。春日井優先生から「学校現場の視点から」として、現在の生徒がプログラミングを学んでいる現状や次期学習指導要領に向け小学校や中学校、高等学校の指導系統性などについて説明がありました。齋藤実先生から「情報オリンピックの活用の可能性」として、情報オリンピックの問題は、工夫次第で高校生でも取り組めることや、教員側も授業でプログラミングを導入する姿勢が必要であることが述べられました。坂田圭司先生から「大学での視点から」として、ディプロマポリシーに基づき行った指導が学生に身についているか、サマーインターンシップなどで試されるため、大学入学から計画的にプログラミングについて指導を行い、必要なスキルの積み上げを図る必要があるが、小中高でプログラミングに関する力を身に付けて大学へつながるようになれば、より十分な指導ができるとの意見が提供されました。太田剛先生から「『プログラミング的思考』から考える」として、諸外国におけるプログラミング教育を通して身につけさせる力の具体的な概念を参考にして、日本の「プログラミング的思考」が求めている力とは何か、考える必要がある。特に、論理的思考だけをとらえても、小中高のプログラミング教育でフォローできることはもっとあると思う、との意見が提供されました。



ライトニングトークの様子

第5回 関東・東北支部大会 報告

その後、1時間程度のグループワークの時間を設け、各グループでライトニングトークでの話題をもとに、プログラミング教育について検討しました。その後のグループ別発表会を通して、教材の蓄積と活用できる環境の構築の必要性や、概念を理解した上でのプログラミング指導のあり方、高校のプログラミング教育のあり方、高校までに生徒に身に付けさせるべき力、先生がプログラミングの指導ができるようになるにはどうすべきか、教材の選定と活用の方法、教員養成課程で出来ることや、学会主催で小中高縦割りの研修会を実施できないか、等の意見が共有されました。



グループ活動の様子

2時間程度のワークショップでは、グループ活動においても論点の提供と共有に多くの時間を費やしてしまい、いくつかの課題を解決するまでは至りませんでした。今後もこのような活動を継続し、支部としての成果が出せればと思っています。

17:30～19:30 情報交換会（参加者10名）

ワークショップの続きとした情報交換会を近所の居酒屋で開催しました。現場で抱える現状の問題点、教員のスキル向上の必要性、教員研究の必要性、プログラミング教育の将来等、様々な意見交換がなされました。

最後に、会場をご提供・ご準備くださいました日本大学のご関係の方々、今回の支部大会の運営にご協力くださいました方々、特に協力くださいました学生諸氏に感謝申し上げます。

第5回関東・東北支部大会実行委員会

尾崎知伸（実行委員会委員長）、春日井優、後藤隆彰、坂田圭司、田崎丈晴、宮寺庸造、夜久竹夫
協力学生

加藤聡志、川口翔大、濱田広大（東京学芸大学）

第14回九州・中国・四国支部研究会 報告

第14回九州・中国・四国支部研究会ならび総会の報告

九州・中国・四国支部 事務局 池田勇（植木保育園）

平成29年度総会と第14回支部研究会を平成30年3月25日に行いました。総会では決算報告や次年度の活動計画等が審議され、その後、支部研究会では、中学校・高等学校・大学教員等が26名参加し、口頭発表4件とパネルディスカッションが行われました。

パネリストとして近畿・北陸支部役員の高橋参吉先生と佐藤万寿美先生が、新高等学校学習指要領案（パブリックコメント用の案）に関して議題等の提供が行われ、活発なディスカッションとなりました。懇親会は約20名で熱気ある意見交換が行われました。

近畿・北陸支部からお越し頂いた高橋先生・佐藤先生、ありがとうございました。
また、会場をご提供頂いた九州工業大学に感謝申し上げます。
以下がプログラムとなります。

以下の研究会と同日・同会場

12:10-12:30 九州・中国・四国支部理事会

12:30-12:50 九州・中国・四国支部総会

第14回九州・中国・四国支部研究会

日時：平成30年3月25日（日）午後1時～

会場：福岡市天神IMSビル

九州工業大学サテライト福岡天神

プログラム

13:00 開会挨拶

13:10～14:50 口頭発表

○情報科授業実践報告 ～年度末考査結果の分析～
山下 裕司（山口県立岩国高等学校）

○IchigoJamを用いたプログラミング教育の事例報告
尋木 信一（有明工業高等専門学校）

○教育養成課程におけるICT活用能力向上の試み
～タブレット型パソコンを活用した教材研究演習を通して～
阿濱 茂樹・鷹岡 亮（山口大学教育学部）

○保育園で情報教育は行われているのか？必要なのか？
～新しい保育所保育指針や保育士の声を通じて～
池田 勇（植木保育園）

15:00～16:40 パネルディスカッション

テーマ「新学習指導要領における情報教育」

パネリスト：

高橋参吉（帝塚山学院大学）

佐藤万寿美（伊丹市立伊丹高等学校）

指定討論者

西野和典（九州工業大学）

16:40 閉会の挨拶・諸連絡



口頭発表の様子



パネルディスカッションの様子

第11回全国大会 発表や参加のご案内

第11回日本情報科教育学会全国大会

発表申込み延長及び参加申込みのご案内（重要）

第11回全国大会が6月23日～24日に、東京学芸大学で開催されます。今回の大会は、プログラミング教育がもたらす情報科イノベーションの形というテーマで実施致します。例年通り、招待講演では、文部科学省の施策的なお話と教育面での動向について、生涯学習政策局の安彦広斉先生と国立教育政策研究所の鹿野利春先生に招待講演をお願いしております。また、プログラミング教育に関わる実践的なワークショップも開催致します。

大会発表申込み(原稿提出)を5月27日(日)まで延長いたしました。皆様のご発表お申し込みをお待ちしております。

また、参加及び懇親会の事前登録（振り込み）の締め切りが6月8日（金）となっています。お忘れの無いようにお早めにお申し込みください。

日 時： 2018年6月23日（土）9：30～17：00

24日（日）9：30～17：00

場 所： 東京学芸大学 〒184-8501 東京都小金井市貫井北町4-1-1, 042-329-7111

【アクセス】

JR 武蔵小金井駅・北口より「京王バス」〔5番バス停〕「小平団地」行に乗車、約10分。「学芸大正門」下車

JR 国分寺駅より「徒歩」20分（JR国分寺駅北口 → 早稲田実業学校 → 連雀通り）

皆様のご参加をお待ちしております。

日本情報科教育学会ニューズレター No. 27 2018年5月14日

発行所 日本情報科教育学会事務局 <http://jaeis.org/>

〒330-0834 埼玉県さいたま市大宮区天沼町2-323 埼玉県立大宮高等学校

E-mail jaeis-jimu@jaeis.org

発行責任者 広報委員会

委員長：久野 靖（電気通信大学） 副委員長：西端律子（畿央大学）

委員：布施泉（北海道大学）、池田勇（植木保育園）